

# 出資団体台帳

出資団体名	<b>35.有限会社ひだ桃源郷</b>
-------	---------------------

所管課	観光課
担当	

## 1. 出資団体概要 (令和5年4月1日現在)

①法人分類	特例有限会社 ( )			
②業務分類	観光・レジャー ( )			
③主な活動範囲	県内規模 ( )			
④所在地	高山市久々野町渚2685番地			
⑤設立年月日	平成16年10月1日			
⑥従業員数	役員	(常勤) 2人 (非常勤) 9人		
	正社員	(常勤) 5人 (内出向) 0人		
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位	
	代表者	代表取締役	中谷 芳政	
	役員	専務取締役	黒木 雅之	
		取締役	清水 雅博	飛騨高山プロモーション戦略部長
		取締役	中田 誠	久々野支所長
		監査役員	北村 鋭	会計管理者
		監査役員	森下 義和	
		取締役	白田 和法	
		取締役	宇次原 清尚	
		取締役	坂下 貞志	
		取締役	切手 法彦	
		取締役	南 正博	
⑧資本金 8,000 千円				
	出資者	資産種別	出資額 出資割合	
	高山市	出資金	3,900千円 48.8%	
	他自治体		0.0%	
	その他	出資金	4,100千円 51.3%	
	【備考】 高山市 (78株) 農事組合法人 (2株:1株*2団体) 町内会 (76株:4株*19町内会) ヒュッテ組合 (4株)  発行株式総数 160株 ※定款に株式発行の定めあり			

⑨設立目的	定款に掲げる主な事業内容			現在の実施の有無	主な受益者
	索道事業	実施	理由 ( )		施設利用者
	観光関連施設の管理運営	実施	理由 ( )		観光客
	飛騨地方の特産品等の販売	実施	理由 ( )		観光客
	農林畜産物の加工及び販売	実施	理由 ( )		観光客
	各種イベント企画運営管理	実施	理由 ( )		観光客
	民芸品の販売	実施	理由 ( )		観光客
	木製家具の販売	実施	理由 ( )		観光客
	木製食器の販売	実施	理由 ( )		観光客
	パン菓子の製造及び販売 等	実施	理由 ( )		観光客
			理由 ( )		
⑩地域の関わり	久々野地域における地域振興や観光振興の観点で、スキー場の運営や道の駅の運営など地域と密着した事業展開をしている。地域からの出資や役員就任により運営されている。				
⑪市民の関わり	飛騨街道なぎさは、地域の特産品の販売や特産品の生産・加工を行っており、地域住民の雇用促進や地域の活性化に繋がっている。				
⑫経緯	出資時の状況 H12.5 道の駅飛騨街道なぎさの新設に伴い、施設の運営管理を行うために岐阜県から設立認可を受けた。 H12.6 旧久々野町が出資して財団法人久々野町ひだ桃源郷創生公社を設立  その後の経緯 H16.9.30 財団法人久々野町ひだ桃源郷創生公社を解散 H16.10.1 有限会社ひだ桃源郷が設立された。設立の際に当時の旧久々野町、久々野町内の各町内会、アルコピアヒュッテ組合、農事組合法人ひまわり農園、農事組合法人もだに農園がそれぞれ出資 旧久々野町 3,900千円 (78株) 出資 H17.2.1 市町村合併により、高山市に出資を継承 H20年度からR4年度まで「飛騨舟山スノーリゾートアルコピア」指定管理者 (R5.4.1 飛騨舟山スノーリゾートアルコピア 施設廃止)				

## 2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	飛騨舟山スノーリゾートアルコピア 廃止 R4指定管理料 30,924千円 (R5.4.1 飛騨舟山スノーリゾートアルコピア 施設 廃止)	赤字	有	有	無
			道の駅「飛騨街道なぎさ」 継続 R4納入金 5,129千円	黒字	有	有	有
道の駅「飛騨街道なぎさ」管理運営業務	○	受託事業	道の駅「飛騨街道なぎさ」 継続 R4管理委託料 7,460千円	黒字	有	無	無

3. 財務状況

(1) 貸借対照表		(平成31年3月31日現在)		(令和2年3月31日現在)		(令和3年3月31日現在)		(令和4年3月31日現在)		(令和5年3月31日現在)		
		平成30年度 第15期	第16期	平成31年度 第15期	第16期	令和2年度 第17期	第18期	令和3年度 第17期	第18期	令和4年度 第19期	第19期	
項目		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	
資産の部合計	A	59,952千円	▲4.9%	81,142千円	35.3%	99,800千円	23.0%	91,829千円	▲8.0%	97,234千円	5.9%	
流動資産	B	59,219千円	▲4.7%	80,534千円	36.0%	99,273千円	23.3%	91,380千円	▲8.0%	96,742千円	5.9%	
固定資産	C	733千円	▲15.4%	608千円	▲17.1%	527千円	▲13.3%	449千円	▲14.8%	492千円	9.6%	
繰延資産		0千円		0千円								
負債の部合計		33,137千円	▲14.6%	49,614千円	49.7%	64,150千円	29.3%	51,547千円	▲19.6%	54,281千円	5.3%	
流動負債	D	25,137千円	49.8%	41,614千円	65.5%	26,150千円	▲37.2%	13,547千円	▲48.2%	16,281千円	20.2%	
(うち借入金)	E											
固定負債		8,000千円	▲63.7%	8,000千円	0.0%	38,000千円	375.0%	38,000千円	0.0%	38,000千円	0.0%	
(うち借入金)	F	(0千円)		(0千円)		(30,000千円)	#DIV/0!	(30,000千円)	0.0%	(30,000千円)	0.0%	
純資産の部	G	26,815千円	10.7%	31,528千円	17.6%	35,651千円	13.1%	40,283千円	13.0%	42,953千円	6.6%	
資本金		8,000千円	0.0%	8,000千円	0.0%	8,000千円	0.0%	8,000千円	0.0%	8,000千円	0.0%	
利益剰余金等		18,815千円	16.0%	23,528千円	25.0%	27,651千円	17.5%	32,283千円	16.8%	34,953千円	8.3%	
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標：無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
	自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上	44.7%	16.4%	38.9%	▲13.1%	35.7%	▲8.1%	43.9%	22.8%	44.2%	0.7%
	流動比率 (B/D)	目標：150%以上	235.6%	▲36.4%	193.5%	▲17.9%	379.6%	96.2%	674.5%	77.7%	594.2%	▲11.9%
	固定比率 (C/G)	目標：100%以下	2.7%	▲23.5%	1.9%	▲29.5%	1.5%	▲23.3%	1.1%	▲24.6%	1.1%	2.8%
	借入金依存度 ((E+F)/A)	目標：前年比較減	0.0%		0.0%		30.1%	#DIV/0!	32.7%	8.7%	30.9%	▲5.6%

(2) 損益計算書		(平成30年4月1日から平成31年3月31日)		(平成31年4月1日から令和2年3月31日)		(令和2年4月1日から令和3年3月31日)		(令和3年4月1日から令和4年3月31日)		(令和4年4月1日から令和5年3月31日)	
		平成30年度 第15期	第16期	平成31年度 第15期	第16期	令和2年度 第17期	第18期	令和3年度 第17期	第18期	令和4年度 第19期	第19期
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益		265,326千円	▲12.0%	249,810千円	▲5.8%	209,996千円	▲15.9%	266,193千円	26.8%	309,842千円	16.4%
営業費用		288,587千円	▲6.9%	284,873千円	▲1.3%	252,872千円	▲11.2%	265,408千円	5.0%	310,894千円	17.1%
	(うち売上原価) (対営業収益比率)		(0.0%)	(198,240千円)	(79.4%)	(168,414千円)	(80.2%)	(174,402千円)	(65.5%)	(219,318千円)	(70.8%)
	(うち人件費) (対営業収益比率)		(0.0%)	(62,541千円)	(25.0%)	(66,694千円)	(31.8%)	(74,158千円)	(27.9%)	(72,566千円)	(23.4%)
<営業損益>		▲23,261千円	▲171.3%	▲35,063千円	▲50.7%	▲42,876千円	▲22.3%	785千円	101.8%	▲1,052千円	▲234.0%
営業外損益		27,049千円	32.4%	41,295千円	52.7%	48,039千円	16.3%	5,029千円	▲89.5%	5,535千円	10.1%
<経常損益>		3,788千円	▲68.1%	6,232千円	64.5%	5,163千円	▲17.2%	5,814千円	12.6%	4,483千円	▲22.9%
<当期純損益>		2,594千円	▲38.0%	4,713千円	81.7%	4,123千円	▲12.5%	4,680千円	13.5%	2,670千円	▲42.9%

<評価分析>	現金(預金)などの流動資産が多額であり、流動比率が高く、自己資本比率も概ね良好であり安全性は高い。営業損益においても黒字化している。
--------	--

4. 市の財政的関与

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
出資金	3,900千円 (48.8%)				
負担金、補助及び交付金	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
指定管理料	17,571千円	32,225千円	40,351千円	38,685千円	36,053千円
その他	12,959千円	11,052千円	16,934千円	19,498千円	15,689千円

備考	<p>指定管理料内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飛騨舟山スノーリゾートアルコピア H29 16,796千円、H30 22,721千円、H31 37,354千円、R2 31,095千円、R3 28,387千円、R4 30,924千円</li> <li>飛騨街道なぎさ H29 △5,150千円、H30 △5,150千円、H31 △5,129千円、R2 9,256千円、R3 10,298千円、R4 △5,129千円</li> </ul> <p>その他内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飛騨街道なぎさ管理運営業務委託 H31 7,170千円、R2 7,460千円、R3 7,460千円、R4 7,460千円</li> <li>車道除排雪等業務委託 H31 2,411千円、R2 6,216千円、R3 9,420千円、R4 5,080千円</li> <li>ふるさと納税お礼品報償費 H31 194千円、R2,161千円、R3 1,649千円、R4 2,107千円</li> <li>需用費 H31 375千円、R2 310千円、R3 267千円、R4 336千円</li> <li>施設用地借上料 H31 902千円、R2 783千円、R3 783千円、R4 783千円 ・役務費 R4 5千円</li> <li>土地貸付料等 R3 △81千円、R4 △82千円</li> </ul>
----	---

5. 課題等

項目		市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	(道の駅)・国道41号線沿いにあり、新鮮な野菜やアップルパイは好評で、購入目的の来訪者も多い。 (スキー場)・飛騨地区で一番南に位置し中京圏に近く、初心者から上級者、老若男女の幅広い客層に利用されている。 ・ひまわり園などグリーンシーズンの活用 ・ゲレンデからは飛騨山脈が一望できる。 (ひだ桃源郷)・会社に対して地域内の住民や事業者が出資や役員就任で関わっており、地域との繋がりが大きい。
		弱み	・新型コロナウイルスや自然災害等により施設の使用ができなくなる場合がある。 ・地域の関わりが大きい外部の視点が少ない。
	外部分析	機会	・アフターコロナにおける人の活動の変化による屋外型施設の利用客の増加 ・国道41号線の修復(下呂市小坂町)による客足の回復
		脅威	・観光客をはじめとして市外からの訪問者をターゲットとしている施設のため、新型コロナや災害、天候不良など予期せぬ事態が発生した際に来客数が減少する。 ・温暖化による雪不足、スキー人口の減少 ・高速交通網の充実による他スキー場へのスキー客の流出 ・近郊(郡上エリア)スキー場の集客増
事業面 (必要性、公益性、採算性、収益性など)		・事業全体での採算性は低い、道の駅は、地域の新鮮野菜・特産品等の加工・販売施設として地域の活性化が図られており必要性は高い。また、国道41号線上の休憩所として観光客の利用がある。 ・新型コロナや豪雨災害の影響により営業が出来ず大きな打撃を受けている。 ・スキー場は気候の変動により営業期間が短くなっており、来場者の減少により収益性は低い状況にある。	
財政面 (財務状況の現状や将来の見通しなど)		・ここ数年、道の駅は一定の利益剰余金を確保しているが、気候変動やコロナ禍において、財政基盤が弱まっている。 ・道の駅の収益により、スキー場の経営を補っている。	
施設・設備 (所有する建物や設備等の状況など)		・団体としての施設の所有はないが、老朽化による大規模な修繕が、施設のあり方とともに課題となっている。	
組織・人員体制 (役員や従業員等の状況など)		・役員や従業員の高齢化が進んでいる。	
公共施設等総合管理計画 (方針と今後の考え方)		・飛騨街道なぎさ 「継続」 ・飛騨舟山スノーリゾートアルコピア (R5.4.1施設廃止)	
自由記載 (団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について)		(道の駅)・団体の事業は団体自らの創意工夫で実施された結果、毎年、利益計上しており独立採算で経営しているため、市の関与を見直す必要がある。 (スキー場)・アルコピアとモンデウスの2つのスキー場のどちらかを廃止する方針だったが、モンデウスを残し、スノーリゾートアルコピアはR5.4.1に施設廃止をした。	